



読書の楽しみを味わわせたい!

境野小では、子供たちに読書を勧めることを、学力向上対策の一環ととらえています。そのため、家庭学習の内容に「読書」も含めています。以前は、週に一時間くらい国語の時間をつかって「読書」を行っていましたが、「ゆとり批判」が起り、教科書が厚くなって学習内容が増えると、なかなか読書の時間を確保することも難しくなってきました。

そこで、原則月曜と水曜の朝行事に設定されている「読書の時間」を充実させたいと考えました。

充実させるための方策の一つは、15分間集中して読書させることです。本は事前に選んでおき、時間になったら席に座って読書に集中する。おしゃべりや他のことは一切せず、本の世界に浸るようにします。たった15分でも、読書の楽しさは味わえると思います。

もう一つは、学級文庫を充実させることです。現在は、図書館に置いてあった本で、少し古くなった本などを各学級に配付しています。そこでお願いですが、

もし、ご家庭やご親戚の家などに、もうお子さんが読まなくなった本などが眠っていましたら、学校に寄付してください。

適切な学年の学級文庫として活用させていただきたいと思います。

なお、本の寄付は、夏休み明けから随時受け付けます。(担任まで)



厚かましいお願いで恐縮ですが、よろしく申し上げます。

ところで、脳科学者の茂木健一郎先生は、「読書が脳に与えるいい影響」を次のように語っています。

1 読書のワクワクで頭がよくなる。

脳にとって読書は、総合的かつ抽象的な刺激。言葉をとおして世界を知る、整理することは、脳の一番高度な働き。読書は、言葉をとおして想像力を育んだり、遠い世界に思いを馳せたりする(ドキドキ・ワクワクする)ので、抽象的な思考能力を高めるにはとてもよい。

2 集中力を鍛えて本番に強い子に。

地頭(じあたま:大学などの教育で与えられたのでない、その人本来の頭のよさ。論理的思考力やコミュニケーション能力などをいう。)の発達のカギになるのが、脳の前頭葉の前側にあるDLPFC(前頭前皮質背外側部)という部位。集中力を発揮するときに使われる回路。いわば脳の司令塔でIQ(知能指数)とも関係が深いと言われる。読書に集中すると、DLPFCが活動し、この回路が鍛えられる。読書で鍛えた脳の回路は、他のことにも応用が利く。読書中に母親が話しかけても集中しすぎて返事をしないなど、そういう子は入学試験や入社試験などの本番でも集中でき、将来の伸びが期待できる。

道路で遊ぶのは危険です。

先日、地域の方から「道路で遊んでいる子がいるので、危ないからやめるよう指導してほしい。」との電話がありました。ヤオコー近くの住宅地の道路だそうです。子供たちが下校した後、辺りを歩いてみましたが、道路に子供たちの姿はありませんでした。その方がおっしゃるには、土日の昼間や平日の夕方とのこと。自転車でレースをしたり、ボールを他人の家の塀に当てて遊んだりしているとのこと。駐車中の車にボールが当たったこともあるとか。いずれにしても道路で遊ぶのは危険なので、お互いに注意し合ひましょう。